

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

# NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2023~2024年度 No.286

## 10月報

那須クラブ会長 主題

### 「若者と共に」成長しよう



強調月間：ASF

**今月の聖句** ヨハネによる福音書 17：21  
父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしの内にいるようにしてください。(略)

### 10月第1例会 (アジア学院収穫感謝祭)

日時：10月14日(土) 午前9時~  
準備：13日(金) 午前10時 田村副会長宅

### 第18回とちぎYMCAインターナショナル・テャリティーラン2023

日時：10月22日(日) 午前9時30分~  
場所：道の駅うつのみやろまんちっく村

### 10月特別例会 (アジア学院留学生との交流会)

日時：10月28日(土) 午後5時~  
場所：日本基督教団西那須野教会 1階ホール  
開会挨拶・司会 会長 河野 順子  
聖書朗読・祈禱 西那須野教会 牧師 潘 炯旭  
ワイズソング斉唱

#### 出席者自己紹介

ワイズ (名前と役割)

アジア学院留学生 (名前と出身地)

ユースリーダー (名前と学年等)

留学生よりスピーチ 5分程度

自国で一番気になっていること (家庭、政治、政策、貧困等)

リーダーによるスピーチ 5分程度

(今の関心事、気になっていること等)

交流会・フリートーク

### 11月第2例会 (役員会)

日時：10月28日(土) 特別例会終了後

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) ウルリック・ラウロセン (デンマーク)

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：(AP) 利根川 恵子(川越)

「改革のための光となろう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平 (宇都宮)

「未来のために今、学びと気づきを！

未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

北東部長： 大久保 知宏 (宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

### クラブ役員

会長：河野 順子  
副会長：村田 榮・田村 修也  
書記：藤生 強  
会計：村田 榮・鈴木 保江  
担当主事：平山 雄大  
ブリテン：田村 修也・村田 榮

### 9月例会データ (出席率：75.0%)

在籍者 8名  
出席者 5名 コメット 1名 ユースリーダー 2名  
ゲスト 9名 メイキャップ 1名

### 10月 Happy Birthday

なし

### ・11月第2 (役員会) 例会

日時：10月28日(土) 特別例会後

・11月第1例会 (日本の文化に触れる 茶道)

日時：11月23日(木) 午後1時30分

場所：那須塩原市二区町 遠山師宅

・北東評議会 (予定)

日時：11月25日(土)

## 巻 頭 言

藤生 強

私の勤務するYMCA特養マイホームきよはらの新型コロナ状況報告第8弾です。

広域特養マイホームきよはらにて、3度目の感染が8月上旬に発生しました。ショートステイ利用者が感染しており、入居者3名と職員1名へ感染が拡大しました。過去の経験を活かした対策の成果によって、重篤になる入居者は無く、ほぼ2週間で終息することが出来ました。（\*感染者が少ないためクラスターとは言わないそうです）

その後は落ち着いた状況が続いていますが、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード」（2023/8/4 発表）では、引き続き「換気に配慮」し、「マスクの効果的な場面での着用」と「手洗い」など、基本的な感染対策を引き続き行うよう注意を促しています。

その中、9月上旬にインフルエンザへの感染が職員にて発生しました。ニュースにて全国的に流行していることは報道されていますが、現実には私たちの身近でも感染者が発生しました。栃木県が発表したインフルエンザ流行状況でも感染者が増加している（流行開始の目安数を超えている）とのことで、インフルエンザと新型コロナとの同時感染の症例も報道されています。新型コロナ同様の基本的な感染対策にて予防が出来るとのことですので、心掛けていきたいと思えます。

私たちは、感染予防を講じるのはもちろんのこと、『症状は無いけれど、もしかしたら感染しているかもしれない』と考えて相手と接することが大切と感じました。

一刻も早いコロナ禍の“本当、の終息を祈るばかりです。



2023. 9.30 9月例会（第3回講演会）於：日本基督教団 西那須野教会



## 9月第1例会(第3回講演会)報告

日時：9月30日(土)午後4時30分～

場所：日本基督教団 西那須野教会

出席者：河野、田村、村田、原田、藤生の各メンバー、田村メネット、ゲスト：ユースリーダー2名、赤坂さんご夫妻、他7名 計17名

例会を始める前に、那須ワイズとしての活動の一つである聖園那須老人ホームへの奉仕として、入所者の方々が生活する中で、様々な場面で使い切りのタオル等の布の贈呈を赤坂さんに行った。



9月例会は、「ACP(アドバンス・ケア・プランニング/人生会議)～もしもの時に備え話し合おう～」の講演(第3回目)を、栃木県訪問看護ステーション協議会会長でもある河野順子那須ワイズ会長を引き続き講師に、多くのゲストを迎えて行いました。

1・2回目は「参加者同士で語り合う、実践的な内容で行いましたが、最終回である今回は講義のまとめとして「講師から聞く、座学にて行いました。初めに『意思表示の大切さ』や『その意思を表示するためのエンディングノート』について話をされました。その中で講師が関わった終末期の方の様子を紹介し、その時に生じた事柄を例に話をされました。

「お金や家など財産の相続のこと」「服や小物などの寄贈・処分のこと」「自動車保険や生命保険など解約のこと」「電話や電気などの解約のこと」など物理面についてノート等に記載するのはもちろんのこと、「治療方法や延命など医療のこと」「最後を迎える場所のこと」「自尊心を保つこと」など精神面の「自分の希望、について「意思表示、をすることがとても大切であると話をされました。



また、上記の様に意思表示をする内容は多岐にわたっており、一人では判断・決断出来ないこともあるので誰かと一緒に話し合うことが大切であり、そのことが周知にも繋がるとのことでした。そして年齢を重ねるに従って家族構成・自分の健康・生活環境などが変化していくため繰り返し話し合い意思表示を更新していくことが大切であり、病気になってからは意思表示が出来なくなる可能性もあるので元気な時に行うことが重要である、と話されました。最後に、「意思表示の書面を実際に書いてみましょう！」と約束して、講演は終了しました。

## 10月第2例会(役員会)報告

日時：9月30日(土)午後6時30分～

場所：日本基督教団西那須野教会

出席者：河野、田村、藤生、村田

協議事項

1) 10月14日(土)アジア学院収穫感謝祭に出店。当日9時に集合。

出展内容は、皆さんからの寄贈品を中心として行う。リンゴとシイタケ昆布を販売。

準備は、13日(金)午前10時より、田村ワイズ宅で行う。寄贈品は、この時に持参。

2) 10月22日(日)とちぎYMCAテヤリティーランに献金10,000円をする。

当日シイタケ昆布の販売を行う。当日の販売にご協力いただけるメンバーは14日までに村田に連絡をする。

3) 10月28日(土)午後5時より、西那須野教会において、アジア学院の留学生との交流会を行う。多くのユースリーダーの参加を！お茶菓子等の準備は、田村メネットのお願いする。

特別例会とし、例会形式で行う。特別例会後に役員会を行う。

4) 11月例会は、11月23日(祝・木)午後1時30分より、行う。

5) シイタケ昆布の購入の件。今回は、バザーとテヤリティーランの為に購入し、残った数と皆さんの販売数を含めて再度注文する。

注文数については、14日バザーで確認する。

## 2023年 北東部大会の報告

会長 河野 順子

2023年9月2日(土)に福島市「コラッセふくしま」という福島市が運営する複合施設で、福島駅西口徒歩2、3分のところにある大きな建物の3階

会議室で行われました。

14時開場で、大久保北東部長が自ら受付をしておられましたことに恐縮し、受付終了後ワクワクしながら望みました。

広い部屋には6グループのテーブルが設えており、出席者は48名(内リーダー8名宇都宮・もりおか)で、私は2グループで8名のメンバーに入りました。まず、福島県には以前(2年位前まで)、会津クラブがありました、散会されて今はワイズクラブがありませんので、ぜひ設立して欲しいという狙いで福島市を会場にしたようです。例によって諸役員さんのあいさつがあり、講話として栗原清一郎氏(キッズケアパークふくしま理事長)の「キッズケアパークふくしま、その役割と課題」がありました。

東日本大震災で起きた福島原子力災害において、国の補償や情報の信憑性に不安を抱いている人が多かった。チェリノイブルが補償移住時5ミリシーベルトの時、福島は20ミリシーベルトと聞かされ、さらに不安になったと栗原さんのみでなく、県民はそう思ったと。それぞれの事情で「逃げられなかった」人達に支援を考え、とりわけ、こどもの居場所づくりを検討し、NPO法人格までとれたそうです。外遊びの出来なかった子ども達は、室内だけでしか遊べなかった時よりも視野が広がっているという講話でした。教会をネットワークとしたが、宗教にこだわらないボランティアが関わっているということでした。

休憩を挟んで、パネルディスカッション「宇都宮市における子どもの貧困への取り組み」のテーマで、とちぎの子どもの貧困撃墜としての資金集め。「サンタになって、子どもの貧困をなくそう、チャリティイベント」等で現在17団体が支援して、今年の目標額は700万円だそう。パネラー・ファシリテーターは宇都宮のYMCA職員でした。

彼らの報告では、給食費の封筒を空のまま提出、衣類の汚れなど見ていると。大人になって見えてきた貧困は、成功体験がないまま自己肯定が出来ず自己否定感が強い。社会的貧困(子どもと遊べる時間が無い)などを知ったという。

富士山部長が参加されており、流ちょうな口調で現状を報告された。観光従事者には、片親が多い。そのため、ワイズは手弁当でドッジボール・野球などを行っているという。

最後にグループディスカッションがあり、「私たちは今、何に取り組むか」のテーマ。それぞれのクラブでの持てるものでの意見が出て大いに参考になりました。

そして、楽しい懇親会。リーダー達が全員参加できる楽しいゲームをし、実りある部大会でありました。私的には、いつもいろいろお世話になっている東京武蔵野多摩クラブで東日本区副書記の山口さんが隣席で嬉しかったり、恐縮したり、感謝したりグループでした。参加は、河野と平山担当主事でした。

## 那須火山噴出物「流れ山」について(4)

副会長 田村 修也

古来茶臼火山体の大崩壊の起こった時期は「流れ山」の表部を被っている地層などからおおよそ四万年前と推定されている。

従って、現在の茶臼岳はその後の火山活動によってつくられた新しい火山体で、山頂部が大崩壊の後、一万五千年後頃から活動を始め、山頂部では一万年前頃から溶岩流の噴出などがあり、休止期をはさみながら活動し、現在の茶臼岳がつけられた。

那須火山地質調査報文

一八九一(明治24)年十月に岐阜・愛知県を中心に濃尾地震が起きた。わが国の内陸地震としては最大級のもので、地震の規模は八・〇、死者七千二百七十三人に達する大被害を受けた。この地震で根尾谷を通る大断層が生じ、地震と活断層との関係について関心をもたれるようになった。

濃尾地震を契機に国立の地震研究機関の必要が叫ばれ、翌二十五年に震災予防調査会がつけられ、基礎的な研究が行われるようになった。火山や地質については、理科大学教授であった小藤文次郎先生のもとで、約六十の火山の地質調査が行われ、震災予防調査報告などに発表されている。

この一連の研究のうち、栃木県内では那須火山地質調査報文(震災予防調査会報告 第三十六号、一九〇一)の他、日光火山(同 第二十七号、一八九九)高原火山(同 第三十一号、一九〇〇)の報告がある。

那須火山の調査は松田繁氏によって行われたが、福島県の二股山地域から旭岳(赤崩山)、那須岳地域にわたる拾い、範囲を調査し、地質図と報告が出版されている。

調査報文中、茶臼岳の説明の中で、「那須爆裂火口」として、次のような記述がなされている。

「茶臼岳は西北に剣ガ峰毘沙門山(朝日岳)及鬼面山の峭壁を以て囲まれ西南は南月山の懸崖を以て囲じようせらる是れ則ち本火山迸出の前に生じたる一大爆裂口壁にして既に呼んで那須爆裂火口と称せり実に当地方有名なる那須八湯中の六湯は本火口内に

抱擁せらる火口の面積約八平方料にして東南に開孔す火山内の溪流二五ありその最も深谷なるものは北南の両火口壁側に存在するものにして所謂明礬沢及高雄股川なり而して他の溪流とは中央より流下する苦土沢その北方に位する大丸の沢及南方に存する湯本沢なり又火口内に三平野あり曰く明礬平曰く八幡平い曰く「つむじが」平なり又那須湯本の北方に位し小丘あり此を御段林と称す既に地形論中に詳述せし所なり予が敢えて那須爆裂火口をここに断言せるは北西南の三面を囲じようせる峭壁の存在せるあり云ふ単純なる事実のみ依りて立論せしに非るなり試みに黒磯或は黒田原寄居道を西北に取り那須湯本に至るの裾野に注目せよ裾野の所々に岩石の大塊（其大なるは径六尺に及ぶ）点在するを目撃すべし而して其岩石の多くは黒色或は灰色の複輝富士岩或は橄欖複輝富士岩にして三本槍火山の溶岩に類似し特に前者の鏡下石基の構造「あたきしちつく」なるものは凝もなく毘沙門溶岩なり而して峭壁内に於ては斯る大塊の反て斯る遠距離に転在せるは爆裂作用に依らずんば他に説明する能わざるなり」と述べている。

百年前に茶臼岳の山頂を、裾野を調査し、基本的には現在の解釈とほぼ同様のことを述べている。まさに卓見というべきであろう。自然を診るとはどうゆうことかと、改めて考えさせられる。「流れ山」は、茶臼岳が初生の火山ではなく二代目火山であることを語っている。

この論文を読んで、改めて火山噴火の脅威を身に染みて感じました。雲仙普賢岳の巨大な火砕流の恐ろしさが甦ってきます。

「流れ山」を家裏にして家を建て、強烈な那須風から家屋敷を守るといふ、この地域の先人の工夫は今も見られ、考えてみれば村田副会長のお宅も、那須聖園老人ホーム周辺のお宅も、家裏に「流れ山」を背にし、更に、那須聖園老人ホーム自体が、流れ山の上に建てられていることに気が付きました。（完）

### 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園  
西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

黒羽刑務所教諭師をしていた時に、東野圭吾さんの作品『手紙』を、殺人を犯した青年の受刑者から勧められました。殺人の加害者とその家族、被害者遺族の複雑な心理について教えられました。また、

心理描写の巧みさを感じました。同じ作家の『赤い指』は、未成年である自分の子どもが犯した犯罪に対して、「親の愛とは」、「夫婦の愛とは」、「家族への愛とは」という観点から、家族の在り方と本当の愛とは何かについて、一教師として、子どもを持つ親として考えさせられた作品でした。「HOUSE(家)」は、人に作ってもらい、お金で買えますが愛はありません。しかし、愛のある「HOME(家庭)」は、毎日毎日の家族間の会話やかかわりの積み重ねと忍耐・努力で共に創りあげるものであると。

愛についてクリスチャンの医師であった日野原重明さんは「愛には犠牲が伴います。愛の衣を着せてあげることです。『愛の衣』とは、寒さで凍えている人に自分のマントをかける、そのマントには血のにじむような裏地がついているわけです。愛の行為は安易なことではできないのです(『たった一度の人生だから』星野富弘、日野原重明)」と述べています。

### アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

9月16日(土)、アジア学院は50周年記念式典を多くの支援者の皆様をお迎えして、祝福のうちに催すことができました。この2年間、数えきれないほどの話し合いを重ね、ようやくその日を迎えられたことを神様に感謝いたします。そしてアジア学院をこれまで支えてくださった多くの方々の尊い想いと深い愛に、尽くせぬ感謝をお伝えしたいと思っています。

この紙面では、9月16日の式典で述べさせていただいた式辞の一部をご紹介します。

『2011年3月に東日本大震災の起きた後、このキャンパスは地震と放射能汚染の影響を受けて、研修の継続が危ぶまれました。その時私たちは一大決心をして、初めてこのキャンパスを離れて、3か月間東京町田市の農村伝道神学校の施設をお借りして研修を行うことにしました。アジア学院のルーツがある学校ですから、広大なキャンパスに畑、校舎、寮と、必要なものはそろっていました。農村伝道神学校には最大限の善処を図っていただいて研修を進めることができたのですが、悲しいことに私たちにとってそこは本当の「アジア学院」ではありませんでした。教務主任2年目であった大柳由紀子さんは、アジア学院が恋しくて毎日泣いていたと、後になって明かしました。



一方で、私は空っぽになったこのキャンパスについて、しみじみと思いました。アジア学院とはここにあるすべてを含むと。つまり、人だけでもない、この場所、建物、この土、この自然、植物、家畜、空気、すべてを含んでいると。多くの人が行き過ぎ、人生のひと時を過ごし、善い時、悪い時、暇な時、忙しい時、楽しい時、悲しい時、辛い時、そのすべてが刻み込まれたこのすべてがアジア学院なのです。ですから放射能汚染を除染で乗り越え、ここを離れることなく住み続けることができたことは、言葉にならないほど幸いなことであったと感謝しています。

50年の歴史と汗と涙と思いの詰まったこのキャンパスと農場は、私たちの宝です。しかしこの宝はきれいに飾って眺めるためのものではなく、未来の農村リーダーを養成するために、これからも日々改良され、未来に向けて開かれた場であるべきです。

そのために私たちは50年目から始まる新しい一歩に「共に学ぼう、未来の農村のために」というテーマを掲げて、元気に歩み続けようと思っています。農村は開発から取り残されたところではなく、可能性の宝庫です。例えるならば、有用な微生物あふれる豊かな土壌です。未だ世界の約半分の人口が住み、多くの自然資源を有し、世界のすべての人が必要とする食料を生産し、その国、地域、多くの民族の文化とアイデンティティの源泉があるところです。また神の創られた創造物の美しさ、豊かさを心から感じるができる場です。その農村を豊かにしないで、人間はどこに豊かさを求めることができるでしょうか。

アジア学院は「フードライフ」「気候正義と気候変動対策」「教育」「組織」そして「土からの平和」という5つの分野から総合的にアプローチして、このキャンパスを学びの場として益々豊かにしていく決意をしました。5つの分野を簡単に紹介します。

いのちと食べものを中心にしたアジア学院の基本概念である「フードライフ」においては、健康と持続可能な食生活、高い食料自給率の維持、食料主権、アグロエコロジー、災害に強い農業の重要性を強調していきます。

「気候正義と気候変動対策」では、キャンパスの資源を十分に活用し、適正技術を考慮した気候正義と気候変動対策を実施します。

「教育」では「持続可能な開発のための教育」を重視し、地域の人々や世界の卒業生からも学び、多くの人々が訪れる開かれた学びの場づくりを目指します。

これらすべてを実行するためには、「組織」の持

続可能性と回復力を高める必要があります。財務基盤や安全性を強化するだけでなく、コーチングやナレッジ・マネジメントを通じて人的・知的資源も整えていきたいと思っています。

最後に「土からの平和」においては、日本がアジア諸国に対して行った侵略戦争の贖罪の祈りの上にアジア学院が築かれたことを覚え、いのちを大切に存在であり続けたいと願います。そのために、いのちを育む「土」を愛し、神によって創造されたすべてのものと共に生きることで平和を創造していきます。平和はその大地で汗し働く人々から始まり、その人々が世界中の平和の実践者となることを信じます。

皆様がこの旅路にこれからも参加し続けてくださることを願い祈ります。』

## YMCAだより

### 【東日本区ユースボランティアリーダーズフォーラムに参加してきます】

2023年9月29日～10月1日までとちぎYMCAから菊地花菜（きくちはな）さんこと、日本



社会事業大学1年のさとっチャリーダーが参加します。さとっチャリーダーは、高校生ボランティアグループつぼみで、積極的に活動しこの春から大学生

となりました！東日本区のリーダーとの交わりをとおしていくつもの発見があることを望んでいます。

### 【とちぎYMCA・那須YMCA10月の予定】

- ・10/7（土） さくらんぼ幼稚園運動会
- ・10/14（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園（ハロウィンパーティー）
- ・10/22（日） チャリティーラン@ろまんちっく村
- ・10/28（土） サタデークラブ@馬頭農村塾（芋ほり体験）

## ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言



①菅原綺那(クロミ)

②国際医療福祉大学 保険医療学部

③岩手県

④先輩からの紹介で知り、子どもとたくさん触れ合える魅力や子供たちと一緒にさまざまな活動ができる

いうことを知ったのがきっかけです！

⑤夏のプログラムで参加し3DAYSです。

理由は、3日間子どもと触れ合い活動していく中で、最初は私も緊張していましたが、子どもの方から声をかけてもらったり、だんだん仲良くなり心開いてくれたりして、たくさんリーダーの名前を呼んでもらえるようになったからです！また楽しい3日間のプログラムをできたからです！

⑥言語聴覚士を目指しているので、言語聴覚士としての道を進み、小児を専門として関わっていきたいと思っています！そのために子どもとの関わり方など経験としてもYMCAの活動に参加し、進路に繋がっていきたいと思っています！

⑦たくさん子どもたちと関われる楽しさなどたくさん学べる場所だと私自身感じています。また、子どもとただ触れ合うのではなく、一緒に心から楽しめる活動がたくさんあるので、私ももっと参加していきたいし色々な子どもたちと仲良くなりたいと思っています！